

第IV期 第17回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2026年2月20（金） 13時15分～13時50分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員（Zoom）、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、竝木則行委員、野村英子委員（Zoom）、藤井友香委員（副委員長）（Zoom）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）高田昌広委員、濤崎智佳委員、堀田英之委員

陪席：

（台外）運営会議：河野孝太郎委員

（台内）土居守台長、堀久仁子特任専門員（Zoom）、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第16回議事抄録の確認

本原委員長から、1月26日に開催された第16回国立天文台科学戦略委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 実施計画策定手続きの検討状況

齋藤委員（副台長）から実施計画策定手続きの検討状況について報告があり、意見交換を行った。

（主な意見交換）

○再提出を求める提案書について

－前回の議論では提案の成熟度に応じて記載する項目を選定するとしたが、提案者の負担を考慮し、全提案者に共通のシンプルな質問を行い、必要に応じヒアリング等で詳細を聞く2段階とすることを提案したい。

－コミュニティ、分野によっては多くのドキュメント作成は求められない。ヒアリングの回数を増やすほうが理解度は上がるのではないかな。

－すぐに答えは出せないが、実施計画は1年間で策定する必要がある、国立天文台執行部による全提案へのヒアリング実施には時間的な制約がある。

－情報収集の重複を避けるため、台内の予算要求資料などを再利用可能なフォーマットとして提案者の負担を軽減できると良い。

ー将来に向けた検討において提案内容を的確に整理することは提案者にとっても有意義である。また、新規提案の公平な評価や判断過程のアカウンタビリティ担保のためにも、10ページ程度にまとめられた書類で審査することが望ましく、双方にとってプラスである。

○ボトムアップによるサイエンスロードマップ（SRM）策定について

ー今回の SRM 策定は手探りだったため色々と反省すべき点もあった。LOI 提出者に今回の進め方に関するアンケートを実施し、次回に活かすことが大事である。

ー新たなプロジェクト提案にはエビデンスが要求される時代である。ボトムアップによるプランニングには相当に意識を変えて取り組む必要がある。

ー手法を身につけるのは非常に大変であり、サポートする部署を台内に設けことも困難である。退職したシニア研究者を活用することも一案ではないか。

以上